

(■トラック1 肩のマッサージ)

(s)

(【主人公】立っている)

(【梨花】)

(マイクとの位置関係…⑨よりも少し遠めで)

(体勢…座っている)

(◇鍵を開ける音)

(◇玄関扉の開閉音)

001「あ、お帰りー。ちょっと遅かったね」

(少し間)

002「えー、別に良いじゃん、うちの仲でしょ」

003「…ほら、一人暮らしって、のんびりできる分、
たまーに寂しくなっちゃう時、ない？」

(少し間)

004「でしょ？ だから、君のことを思って、部屋にお邪魔してるってわけ」

005「どう？ 元気出た？」

(少し間)

006「もう、溜息なんかついてえー」

007「そんなに一人が良いなら、私の部屋に行ったら？」

008「今誰もいないから、好きなことし放題だよ？」

(少し間)

009「ふふ、じゃあ早くこっち来なよ。
鞆なんか置いてやって」

(◇鞆を床に置く音)

(◇近づく足音)

(位置：⑨よりも少し遠めの位置↓⑧に移動)

010「…あ、隣、空いてるよ？」

011「まあ、私のソファーじゃないけど」

(◇ソファーに座る音)

(位置：⑧↓⑦に移動)

012「お、素直だね…。…もしかして、けつこつ疲れてる？」

013「…んー。だったら、帰った方が良かな…」

(少し間)

014「いや、遠慮っていうか…親しき仲にもってやつ」

015「一人になりたい時もあるだろうし。
私ってそこまで無神経でもないでしょ？」

(少し間)

016「そ、空気の読める女ってわけ」

017「で…どうなの？ 帰った方が良い？」

(少し間)

(次の台詞、にやける感じで)

018 「ん？ ふーん、へえ、そっかあ」

(ここからオンマイク、小声で)

019 「…ふふ、良いよ。側にいるね」

020 「君、けっこう弱ってるみたいだから」

021 「…んー。何か、してあげよっか」

022 「例えば…肩揉んであげるとか。
どうかな。凝ってるんじゃない？」

(少し間)

023 「ふふ、決まりだね」

(オンマイク、小声はここまで)

(◇ソファから立ち上がる音 右)

024 「んっしょ」

(位置…次の台詞を言いながら、⑦→⑤に移動)

025 「んじゃ、早速、肩のマッサージするね」

026 「…ん」

(◇肩を揉む音 ループ)

027 「…ん、んう…ん、ふう…」

028 「力加減、このくらいで良い？ …ん…んっ…」

029「ふう、あ…もうちょい強めね」

030「んう…ふっ…ん、しょ…」

031「……ふう。けっこう、強く揉んでるつもりだったんだけど…んっ」

032「んう、ふう……え？ ……むう」

033「私だって、ちゃんと女の子なんだよー？ ん…っ」

034「昔は、私の方が力…強かったけどさ、今はさすがにね…」

035「ん…しょ、んう………」

036「あ、笑った。…何さ、別に変なこと言ってないよね？」

037「…私が女の子だって、そんなの当たり前じゃん」

(少し間)

038「ふーん。そうやって余裕ぶってるけど、

実は意識してるんじゃない？」

(位置…次の台詞を言いながら、⑤↓④に移動)

039「距離だって近めだし…。

揉んでる手も、細くて小さいでしょ」

(ここからオンマイク、小声で)

040「そーゆーとくに、ドキッとしたり、しない？」

041「……ほんとにっ？」

042「……んー、そっかあ。まー、そっだよねえ」

043 「付き合い長いし……ん、ふう……ん……」

044 「そういえば、子供の頃も、こっやって肩揉んだりしたよね」

045 「…憶えてる？」

大人の真似っこして、全然疲れてないのに、あー肩凝ったあって」

046 「…あの時は、肩揉まれても、

ちよっとくすぐったいだけだったのに…」

047 「今は、ちゃんと気持ち良いって感じ、するよね…」

048 「…ん、ふう…

いや…なんか、お互い大きくなったなあって…」

049 「一緒にいると、あんまり気づけないけど……ん。

肩…がっしりしてる」

(位置…次の台詞を言いながら、④→⑥に移動)

050 「…小さかった背中も、広くなって……ふう」

051 「やっぱり、照れてるんじゃない？ 顔…赤くなってるよ」

052 「……なんて、うーそ。ふうふう」

053 「赤くなってるのは、嘘だけど…

顔、ちよっと緩んでるのは、ほんとだよ」

054 「…帰ってきた時より、リラックス…してる」

055 「…ん、はあ……ん、ふう……ん……」

056 「肩も、だいぶほぐれてきたねえ…」

057 「…ん、ふう…。マッサージ始めた時は、もうガチガチで…」

058 「ほんとに、凝ってるって感じだったから…」

059 「…ん、はあ…。今日も、大変だったんだね」

060 「…大学生は、時間有り余ってるのに。すごいな…社会人って」

061 「…ほんと、お疲れ様」

062 「…ん、何さ…。

私がこんな」と言っの、変だって思う？」

(少し間)

063 「ん」。私も、ちょっと照れくさいかも…」

064 「でも、言いたかったから」

065 「…たまには、こういうのも良いんじゃない？」

066 「…ん、しょ」

067 「…ん、ふう…もみ、もみ」

068 「…硬くなった筋肉も、んう……

しっかり、労わってあげないとねえ…」

069 「…ん、んう…ふう、もみ、もみ……

もみもみい…っ」と

070 「…ん、はあ…。ほら、お肉は叩いたり揉んだりすると、
柔らかくなって…美味しくなるから」

(位置…次の台詞を言いながら、⑥↓⑤に移動)

071 「…って、君が美味しくなっても、しょーがないか」

072 「ん…ふう。ああ……なんだか、お腹空いてきちゃった」

073 「もう夜だし…お肉の話してたら、ちょっとね…」

074 「……え？ うん、知ってるよ。

帰って来る前に冷蔵庫見たから」

075 「くすつ。見事にすっからかんだったねえ」

076 「……あ、外食じゃなくて。

実は、買い出しして来たんだ」

077 「どうせ、ろくなものないだろうなーって思ってた」

078 「…実際、その通りだったでしょ？

…ふっ。もう何年の付き合いだと思ってるのー？」

079 「そのくらい分かるって。

…ん、ふう……ん、はあ…」

080 「…で、肩の具合…どう？ 少しは楽になれた？」

(少し間)

081 「そか、良かった」

(数秒ほど間)

(位置…次の台詞を言いながら、⑤↓④に移動)

082 「…じゃあ、そろそろ「飯にする？」

(数秒ほど間)

083 「うん、りょーかい」

(◇肩を揉む音、ニニニまで)

(オンマイク、小声はニニニまで)

084 「まー、2、30分もあればできると思うから、そこで待ってて」

(少し間)

085 「ん？ 献立…何か気になる？」

(位置…次の台詞を言いながら、④↓③に移動)

086 「それはあ……」

(ニニニからオンマイク、囁くように)

087 「出来てからの、お楽しみ。ふふ」

(オンマイク、囁きはニニニまで)

■トラック2 手料理と初めてのエッチ

(s)

【主人公】立っている

【梨花】

(マイクとの位置関係…⑦)

(体勢…立っている)

◇野菜を切る音 フェードインしてループ

(数秒ほど間)

001「んー？ なーに。ソファで待ってれば良いのに」

002「何作ってるか、知りたいの？」

(少し間)

003「んー…簡単に教えちゃうのも面白くないなあ」

004「当ててみてよ。これ、何作ってると思う？」

(数秒ほど間)

005「あー、惜しいかも。

近いんだけど、カレーじゃないんだよねー」

006「使う具材は一緒でも、味や色は全然違うから。

…これ、大ヒントだよ」

(少し間)

007「そ、せーかい。

カレーとシチューの違いって、ルーの色とスパイスくらいだよねー」

008「どっちも手軽に作れるし、
レシピ通りに作れば失敗することないから、
安定してるっていうか…」

009「…あ、言っておくけど、
私はアレنجとか加えても、失敗しちゃったりしないよ？」

010「料理の腕、知ってるでしょ？
ほら、こんなに手際良いんだから」

011「……ちよ、それは昔の話だって。今は大丈夫」

(少し間)

012「んー…そりゃ、練習したから、かな」

013「何もしないで、急に上手くなるわけないじゃん」

014「お母さんに教わりながら、いっぱい努力して、頑張らないと……」

015「…え？ それは…なんていうか。
料理できる方が、女の子っぽくない？」

016「…もう、恥ずかしいこと言わせないでよ。
…ほんと、それだけだから」

017「んう……」

(少し間)

(◇野菜を切る音 ニニニまで)

018「何…？ そんな、じーっと見て」

(少し間)

019「ああ、これ？」

やっぱり、料理する時は、エプロン付けた方が女子力高いかなーって」

020「どう？ 似合ってる？」

(少し間)

021「何さー、もっと褒めてよー。

もしかして、照れてる？」 ふふ

022「まー期待してないけど、ちょっとくらいは……え？ あーうん」

023「……いや、可愛いとか。

言われてみると、恥ずいね」

024「あー……うう、やっぱなしで。

なんか言わせたみたいだし」

025「……ちょ、ほんとそーいうの、良いから。

ほら、早くシチュー作らないと」

(位置…次の台詞を言いながら、⑦→⑤→③に移動)

026「えっと……お鍋の様子は……うん、良い感じ」

(◇炒める音 ループ)

(数秒ほど間)

027「……もお、その可愛い可愛いって言っの止めてよー。

さては味しめてるでしょ」

028「そんな心のこもってない可愛いなんか、ちっとも効かないから」

029「……まあ、褒めてくれるのは、悪い気しないけど」

(少し間)

030「というか…いつまで見てるの？」

(少し間)

031「や…私のこと、見てるよね。お鍋の中じゃなくて」

(少し間)

032「えー、ほんとに？」

料理してる私に、見惚れちゃったとか？」

033「…ふふ、冗談だつてえ」

034「……んー、でもさ、お鍋見てて、面白い？」

035「まだ時間掛かるし、お腹空いちやうだけだと思っなあ…」

(少し間)

036「そう？　なら、良いんだけど」

(◇炒める音　フェードアウト)

(時間経過のため、数秒ほど間を置く)

(◇煮込む音　控え目な感じ　フェードインしてループ)

037「んうー、良い匂い」

038「……はあ。この音聴いてるだけでも、お腹空くよねえ」

039「……んー、もうちょっとかなあ」

040「私だって早く食べたいけど、

ほら…まだとろみがついてないでしょ？」

041「もっと「う」…混ぜた時に、
とろ～ってなるまで待たないよ」

(少し間)

042「あ、今…お腹鳴らなかった？」

(位置…次の台詞を言いながら、③→⑥に移動)

043「いや、絶対鳴ったって。

可愛い音が、くぅぅって」

(少し間)

044「え？ 聞き間違いのわけないって。

絶対お腹鳴ったもん」

(少し間)

…045「へえ」

(位置…次の台詞を言いながら、⑥→⑦に移動)

046「じゃあ、次は聞き逃さないようにしなくちゃ」

(ここからオンマイク、囁くように)

047「…ふふ。この距離だったら、もう誤魔化せないよね」

048「…ほらあ、シチューがことごと煮込まれてる音…

それに、優しい匂いも…。意識すると、お腹空いてくるでしょ」

049「……お肉と、野菜の旨味が溶け合って…

じゅっくら…と「と」「と」「と」「と」……と」

050「……あ。ふふ」

051 「今度こそ、お腹鳴ったよね」

052 「君の恥ずかしい音、聴いちゃった。ふふ」

(次、自分もお腹が鳴ってしまう)

053 「…あ。うう…」

(オンマイク、囁きは「こまで」)

054 「い、今は…そのう……はい、私も鳴っちゃました…」

055 「はあ…ふふ。引き分けだね」

056 「別に勝負してたわけじゃないけど。
あー面白かったーっと」

(位置…次の台詞を言いながら、⑦→⑤→③)

057 「さーで、シチューの方は…うん、とろとろになってきたねえ」

(◇煮込む音 フェードアウト)

058 「あ、お皿ありがと」

(◇お皿に盛りつける音)

059 「これで完成」

060 「はい、これ君の分ね」

061 「…あ、全部持ってってくれるの?」

062 「…じゃあ、よろしく。

私はスプーンとか持っていくから」

(◇二人がリビングに移動する音)

(◇食器をテーブルに置いていく音)

(◇二人がカーペットに座る音)

(位置…③↓①と⑨の中間に移動)

063「…ふう。じゃあ、食べよっか」

064「…はい、いただきます」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

065「ん…はむ、もぐもぐ…うん、美味し」

066「…で、そっちはどう？」

(少し間)

067「やった。まあ、自信あったけどねー。

子供の頃から作ってたし…」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

068「ん…はむ、もぐもぐ…あ、気づいた？」

069「…そーだよ。

「このシュー、君のお母さんが作ってるの、おんなじレシピなんだ」

070「…いやいや、ルーが同じとかじゃなくて。

そもそも、ホワイトソースは自作だし」

071「それに、隣で見てたでしょ？
ずうっと。ふふ」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

072 「……あーむ。もぐもぐ……ふふふ」

073 「びっくりしたー？」

シチュー以外も、色々作れちゃうよ。ぜんぶ、君の家庭の味でね」

074 「……え？ だから言ったじゃん」

075 「料理はお母さんに教わったって。

……誰も、私のお母さんとは、言っていないでしょ？」

076 「……ふふ、そーゆー」と

(◇食器がスプーンと擦れる音)

077 「……ん、あむ……もぐもぐ……うん、美味し」

078 「……ほら、何ぼーっとしてんの？

シチューはあっつい食べないと

(◇食器がスプーンと擦れる音)

079 「……あむ、もぐもぐ……んーっ」

(◇食器がスプーンと擦れる音 数秒ほど流してフェードアウト)

080 「……ふう。」馳走様でした」

(少し間)

081 「……ねえ。」の後、じじいすずめい「……っめい」

(少し間)

(位置…次の台詞を言いながら、①と⑨の間↓③に移動)

082 「いや、せっかく来たんだし、

「飯食べてすぐ帰るっていうのも、勿体ないっていうか…。ん、しょ」

(◇座る音 左)

083 「なんか、映画とか見る？

確か、借りてたやつ、あったよね」

084 「……あ、もう返しちゃったの？

…んー、そっかあ」

085 「じゃあ…お酒でも飲まない？」

(少し間)

086 「えー、良いじゃん、宅飲み」

(少し間)

087 「んー、何がまずいの？ 別に普通だって」

088 「……それとも、お酒飲んだら、何かまずくなっちゃう？」

089 「…例えば、我慢できなくなったり。ふふ」

(少し間)

090 「えー、そうかなあ？」

091 「バレてないって思ってたそうだけど、

私のこと、意識してるよね」

(ここからオンマイク、小声で)

092 「…さっきだけじゃなくて、今も。ふふ」

093 「誤魔化さなくても良いって。

料理してる時、私のことチラチラ見てたし」

094 「こういうの、何か期待しちゃうシチュエーションだもんねえ」

095 「一人暮らしの部屋に、女の子と二人つきりとか…」

096 「…そこにお酒も入ったりしたら…

やっぱり…そーゆー感じになっちゃったり…する？」

(オンマイク、小声はここまで)

097 「えー、なにそれ、ひどい」

098 「幼馴染の前に、私…女なんだけど」

099 「…そこまで言うならさ、試してみても…良い？」

100 「……ん？ 何慌ててるのー？

私のこと、意識してないんでしょう？」

101 「だったら…ちよつとくらい悪戯しても、良いんじゃない？」

102 「君の、こー」……」

103 「あれ、少し…大きくなってる…。

まだなんもしてないのに…」

104 「……え？ いや、皺じゃないでしょ。……ん」

(◇ズボン越しに触る音)

(「こ」からオンマイク、小声で)

105 「ほーら。やっぱ、硬いじゃん」

106 「…っん、っん。すり、すり…ふふ」

107 「どうして「こ」、大きくなってるの？」

距離…近すぎた？」

(少し間)

108 「へえ…違うんだ」

109 「…じゃあ、たまたまこのタイミングで、勝手にそっになったって「こ」？
…生理現象的な」

110 「…ふーん。そっか」

111 「……ね。「こ」、見せてよ」

112 「……や、なんか…ノリっていうか…そんな空気じゃない？」

113 「…何、照れてる？
子供の頃、一緒にお風呂入ったりしたじゃん」

(位置…次の台詞を言いながら、③↓⑤↓⑦に移動)

114 「あの頃とは、やっぱ…違うのかな。
…ちょ、手…どけてよ」

115 「隠されると、余計…気になる」

116 「いーじゃん。幼馴染なんだから、見せてよ。
減るもんじゃないでしょ。…ね？」

117 「……んー。やっぱり…意識してる？」

(少し間)

1 1 8 「なら、良いよね。チャック…開けるよ」

(◇チャックを開ける音)

1 1 9 「……あ。…ん…」

(◇下着が擦れる音)

(オンマイク、小声はここまで)

1 2 0 「はあ、あ……お、おっきい…ね。

子供の頃と…全然、違う…」

(位置…次の台詞を言いながら、⑦→⑧に移動)

1 2 1 「もっと…こう、可愛い形…してたのに。

大人な…感じた」

1 2 2 「…ふふ。…、もじやもじやしてる…はあ。

変わっちゃったね」

1 2 3 「……うん、私もだよ。ちゃんと、大人になってる。

…だから」

(◇手コキの音 ループ)

1 2 4 「…ん。…ういう」と、しても良いよね」

1 2 5 「…嫌なら、手、振り解いて良いよ」

1 2 6 「……や、何でって…握って、ほしそだったから」

1 2 7 「…こうしないと、大きいままなんですよ」

1 2 8 「じゃあ…擦って、小さくしてあげないと」

1 2 9 「……ん、はあ……んっ……ん、ふう……」

1 3 0 「あ…びくびく、してきた」

1 3 1 「……ん、はあ……あっつい……」

1 3 2 「……ん……んっ……はあ……」

1 3 3 「……どうしたの。手ですもの、止めてほしい？ ……ん、はあ……」

1 3 4 「……嘘だよね。声に、力入ってないよ」

1 3 5 「握ってると」は、こんな…硬いの」

1 3 6 「んっ……ふう……や、だから……」

(位置…次の台詞を言いながら、⑧→⑦に移動)

1 3 7 「理由とか…そんな、大したことじゃなくて……」

1 3 8 「実際さ…興奮、してたんですよ。

で…私もそれ見て…そういう気分になったから……」

1 3 9 「……ん、はあ……。仕方ないよね…

身近にいる異性って…君くらいだし」

1 4 0 「嫌じゃないなら、しても…良いじゃん」

1 4 1 「……ん、はあ……ん、んう……はあ……」

1 4 2 「あれ、先っぽ…ヌルってしたの、出てるけど…
感じてきてるんだ」

1 4 3 「んっん……んう……？ 何さ……」

144「……え、もう、出そうなの？」

145「ああ、いや……出して……良いんだけど。
ん……なんていうか……」

146「このまま……手で出して……良いの？」

147「……ん……」

148「ほら、もっと気持ち良いの……あるよね」

149「手のひらでするより、エッチなこと……」

150「は？ ビッチじゃないし。」

「っっ見えて……いや、普通……した……と、ない……」

151「……だから、処女だって、言ってる……」

152「ん……言わせ、ないでよ」

153「そっちだって……童貞でしょ」

154「……良いよ、見栄張らなくて」

155「……だって、君の近くにいた女の子って……私くらいじゃん」

156「誰かと付き合ってたら、すぐ分かるよ、私物とかで。
そもそも、家……行かないし」

157「……ん、はあ……」

「……で、どうなの？ 興味……ある？」

(「ここからオンマイク、囁くように」)

158「……セックス、してみたい？」

159 「……ん。私は…しても、良いよ」

160 「…恋人なんて、いつできるか…分からないし。
それまで、ずっと処女っていうのも…アレだから」

161 「一緒に…捨てちゃおうよ。
…昔みたいに、さ」

162 「初めてのことは、絶対…二人でしてたよね」

163 「……大丈夫。そんな、重く考えなくて良いから…
エッチ、しょ？」

164 「…君だけじゃなくて、ん…はあ。私も…気持ち良くなりたいて…
言わなきゃ、分かんないの？」

165 「…ん、はあ…。君だけ、イッて…。
私だけ、家に帰って、一人で…とか。そんなの、やだ…」

166 「……ん。それか、気持ち良くするの、止めちゃう？」

(少し間)

167 「ん、はあ……だよな」

168 「こんな、大きくさせて…。
握ってる手、ベトベトにしてるのに…」

169 「…こでお預けとか、切ないよね…
君も…私も」

(少し間)

(オンマイク、囁きは…こまで)

170 「…ん、ああ。ずっと擦ってたら、出ちゃうか…」

(◇手コキの音 ニニまで)

171 「わ…手え放しても、震えてる…
もう待ちきれないって感じだね」

172 「……全部入れた瞬間、すぐイっちゃったりして。…ふふ」

(少し間)

(位置…次の台詞を言いながら、⑦→②に移動)

173 「そう言われても、信じられないな―?
実際に、してみないと」

174 「……あ。ゴムとか…あったつけ」

175 「…んー……コンビニ近いけど。
なんか…するぞって時に、少し時間空いちやうのも…」

176 「…いや、逆に…その方がエロかったりするのかな？」

177 「…う…コンビニまで歩くのはいつも通りだけど…
帰ったらしちゃうんだって考えると…ドキドキしたり…
え、持ってるの？」

178 「……あー、ほんとだ。

…それ、相手もないのに、買ったの？」

(少し間)

179 「へえ。…まあ、良いけど」

180 「場所は……ソファーでいっか……ん」

(◇衣擦れの音)

181「服…脱いじゃうから。」

その間に、「ゴムの準備…しといて」

182「…あ、使い方分かる？」

(少し間)

183「そりゃそうだよな。てか、箱…空いてるし」

184「練習してたんだ。…ふふ、やる気充分だね—……ん」

(◇衣擦れの音)

185「…ふう。脱いだ…よ」

186「……じゃ、しよっか。ソファ—…行」

(◇ソファに寝る音)

(位置：②→①と⑨の中間に移動)

187「…はあ。良いよ…」

(少し間)

188「…ん。」「…までしといて、今更止めるとか…言わないよね」

189「おちんちん、したいって言ってるよ」

190「……ふふ、君らしくないなあ」

191「遠慮なんて、珍しいね？」

……今はさ、そういうの良から

192「初めての」と、「一緒に…しよっか」

「…のままだと、冷えちゃうっ」

(◇愛液の音)

193 「ん…ああ…。そう…そのまま、入れて…」

(◇愛液の音)

194 「んう…はあ…ん、く…」

195 「大丈夫…。ほら、ちゃんと…来てよ。

奥まで…んう…」

(◇愛液の音)

196 「あ…ああ、はあ…。その、まま…おちんちん、全部…っ」

197 「んっんう…はあ…」

(◇挿入音)

198 「んんんうう…っ、あ…はあ…はあ…ああ…」

199 「あんな…大きいのに。入ったんだ…ん、はあ…」

200 「…ん、ふう…で、この後は…どうするの？」

これで終わりじゃ、ないでしょ」

201 「せっかく繋がったんだから…気持ち良くならないと」

202 「…ほら、楽しもうよ。

…それとも、動いたら、気持ち良すぎてもう出ちゃうっ」

(少し間)

203 「なら、してみてよ。処女…だったんだから、最後まで…」

(◇ソファの軋む音 抽送の速度に合わせる感じで ループ)

204 「んっ、あっ……んっんう……はぁ、んっ……あぁ……」

205 「そう……動かないと、セックスにならないからね……んっはぁ……」

206 「んっ……んう、はぁ……うん、私なら……んっ、平気……」

207 「……それより、そっちの方が……まずいんじゃない？ んう……はぁ……」

208 「なんか……情けない顔、してる……んっ、あぁ……」

209 「んっ、んう……ねえ、私の中……そんな、気持ち良いの？ んっ……ふう……」

210 「……や、強がらないですよ……んっ、はぁ……ばればれだって」

211 「その余裕ない顔も……んう、中の、おちんちんも……はぁ、あ……んっ、
はぁ……跳ねてるじゃん」

212 「んっんう……ほんと、すごいよ……」

はぁ、興奮……してるんですよ」

213 「初めての、セックス……んっ、んっ……あぁ……」

214 「はぁ……んっ、んっん……あぁ……あぁあ……っ」

215 「私も……気持ち良いよ。

んっ、あぁ……硬いの、ちょうど良いと……に、擦れて……んう、はぁ……」

216 「あっあ、んう……はぁ、

素直って言われても……んう、はぁ……」

217 「セックスって、気持ち良くなるためにするもんでしょ？」

218 「んっはぁ……なのに、強がってちゃ、盛り上がれないじゃん」

2 1 9 「あつ、ん……。」「までしちゃったんだから、
最後まで楽しまなくちゃ……んっ、ああ……」

2 2 0 「んっんう、ああ……。はあ、んんっ」

2 2 1 「あ、そ……。んっんう、はあ……。気持ち……。んう、はあ……」

2 2 2 「んっ、あつ、あつああ……。そっちこそ、どうなの？
……んっ、はあ」

2 2 3 「おまんこの、中って……。んんっ、
んあつああ……。そんな、良いのかなって……」

2 2 4 「ちょっと……。気になったから……。んう、はあ……。んっああ……。へえ」

2 2 5 「良く分からないのに、気持ち良いんだ……。
んあつ、はあ……。まー、そっか」

2 2 6 「おちんちん、入れるための……。んっ、穴だし……。
あ、ん……。はあ……。ああ……」

2 2 7 「んっんう、んっああ……。はあ……
ああ……。ほんとに、しちやってるんだ」

2 2 8 「実感、ないな……。んっ、ああ……
気持ち良いとこ、擦れてるのに……。んっ」

2 2 9 「……。はあ、ああ……。うん、入ってるとこ、見えてるし……。感じてるよ」

2 3 0 「目の前で、おちんちん……。出し入れされて……。
それでも、不思議な、感じ……」

2 3 1 「ああ、んっんうっ、はあ……。リアルな、夢……。見てるみたい……」

2 3 2 「んあつはあ……。夢じゃ、ないよね」

2 3 3 「…ん、はあ……はあ、はあ……そう、だよね」

2 3 4 「んあっはあ……だって…んんっ、
気持ち良いの…どンドン、大きくなって…」

(◇抽送音 だんだん普通くらいの速度で ループ)

(位置…次の台詞を言いながら、①と⑨の間↓①に移動)

2 3 5 「んっんっ、あっあっ、ああ……んっ、んんうっ、はあ…」

2 3 6 「急に、がつついてきたね……んう、はあ……
そんな、覆い被さってきて…顔、ぶつかっちゃいそう…」

2 3 7 「んう…はあ、んっああ……ちゃんと気を付けてね…」

2 3 8 「んあっ、あんっ、あっああ…ああんっ、あっああ…」

2 3 9 「うう…ちよっと、恥ずかしいかも…
んあっ、あっ、ふあっああ…っ」

2 4 0 「私のじゃない声、出ちゃう……
んっんう、んあっ、んやっ、あんっ、あっああ…っ」

2 4 1 「はあ…ああ…一人ですのと、こんな…っ、
んん…っ、違う…なんて…」

2 4 2 「んあっあんっ、あっああ……
はあ、知らなかった……んう、セックスって…
すごく気持ち良いんだね…」

2 4 3 「んっ、あっああ…んあっ、あんっ、
んううっ、ふあっああ…」

2 4 4 「んんっ、こ、これ…うあっ、おちんちん、
さっきよりも…びくって…んんっああ…」

245 「い、いきそう…なの？ んっはあ……
あっああ……そう、なんだ…」

246 「……ん、はあ…実は、私も…んんっ、ああ……
いき、そ…っ、んっんっ、んあっああ…」

247 「そん…なっ、奥はっかり…んあっ、何度…もお、されたら…っ」

248 「んんあっ、あっあっああっ、

イク、イクって、これえ…っ、あああ…っ」

249 「君も、んう、一緒…につ、んっ、んあっあっあっああっ、
イク、イクイクイクっ、あああっイイい——っ」

(◇ソファの軋む音 ニニまで)

(◇抽送音 ニニまで)

(射精)

250 「んんんううう…っ、
んあッ…あっ……あああ…っ」

251 「んっんう…ああ…はあ…はあ…はあ…はあ……
イったん…だよね…」

(少し間)

252 「…うん、中のおちんちん、
すっく…びくびくって…してた…」

253 「はあ…ああ…ほんとに…しちゃったんだ……
はあ…最後、まで…はあ…あー汗、やばい…」

254 「…ん、はあ…シャワー、入ろっか…」

255 「……いや、ニニまでしたんだから……
もう、一緒に良いんじゃない…っ？」

256 「…昔、入ってたみたいにな…
今更、恥ずかしいとかないし」

257 「……ふふ。てか、重いよ。
顔も、近い」

(位置：①↓①と⑨の中間に移動)

258 「……ん。じゃあ、お風呂…行」っか

(■トラック3 頭をわしゃわしゃ)

(s)

(【主人公】立っている)

(【梨花】)

(マイクとの位置関係…⑤)

(体勢…立っている)

(※トラック3、4は編集で浴室に在るような声の反響処理をお願いします)

(◇浴室の扉の開閉音)

001「…二人で入ると、やっぱり狭いね」

002「……うん、あの頃は、お風呂って広いイメージだったなあ…

……うう、さむ」

(位置…次の台詞を言いながら、⑤↓⑥に移動)

003「早いとこお湯浴びちやお。

裸のままだと風邪引いちゃう…」

(◇シャワーの音 ループ)

004「……うん、このくらいかな。

……掛けるよっ」

(◇シャワーの音 身体に当たる感じ 左右に振る ループ)

005「……どっつ？ 熱くない？」

006「……じゃあ、私も……はあ、あつたかあ…」

007「んんう、ああ…汗でベトベトだったから、んう…気持ち良い。
はあ」

(十五秒ほど間)

(◇シャワーの音 フェードアウト)

008 「…ふう。じゃあ、洗ってこっか」

009 「…ああ、待って。

自分でするんじゃないくて、私がしても良い？」

(少し間)

010 「えー？ 一緒に入ってるんだし、それくらいしても良くない？」

011 「お風呂入る時は、いつも洗ってあげてたよね？

まあ、子供の頃だけど…」

012 「…ほら、そこ座って。頭洗うから」

013 「……ん？ なんか、勘違いしちゃってた？

身体じゃなくて、洗うのは頭の方なんだけどな—？」

014 「んー？ ふふ。

別に、紛らわしい言い方してないって」

(位置…次の台詞を言いながら、⑥↓⑤に移動)

015 「そっちが意識しすぎなんでしょ？」

016 「大体、さっきはエッチまでしちゃったんだから…

これくらい何でもないと思うけどな—」

017 「……あ、思い出しちゃった？」

018 「ふふ、何気まずくなってるの？ 深く考えすぎ」

019 「今時エッチなんて、学生でもしてるんじゃない？」

020 「それに比べれば…ねえ？」

(少し間)

021 「…うん、まあ、誰がいつしてるとかじゃなくて…」

(位置…次の台詞を言いながら、⑤→④に移動)

022 「そういう問題でもないっていうのは、
私も良く分かってるけど…」

(位置…④→③に移動)

(ここからオンマイク、小声で)

023 「……後悔、していないから」

024 「……ちゃんと、気持ち良くなれたし。ふふ」

(オンマイク、小声はここまで)

(位置…次の台詞を言いながら、③→⑤に移動)

025 「さ、頭洗ってくよー」

(◇シャンプーボトルのプッシュ音 二回)

(◇手のひらで擦り合わせる音)

(◇頭をわしゃわしゃ洗う音 中央から左右に振ったり、耳の両側で 耳に近づく際は音量を少し上げるなど ループ)

026 「…わしゃわしゃ、わしゃわしゃ…くすっ」

027 「…頭もおっきくなったね」

028 「…でも、ん…この感じ…変わってないなあ…」

029 「……実は、頭洗うの、けっこう好きなんだよねえ」

030 「癒されるっていうか……。

君も、気持ち良くなってる？」

031 「自分で言うのもなんだけど、

髪洗うの、けっこう上手い方だと思うよー」

032 「……まあ、君のしかやったことないから、

君の頭限定だけだねー」

(数秒ほど間)

033 「…ん、そっか。

ちゃんと出来て、良かった」

034 「……あれから、けっこう時間経っちゃったけど。

腕はにぶってないみたいだねー。ふふっ…」

(次、「機嫌な鼻歌」)

035 「ふんふん、ふーん♪ ふーふん♪」

(三十秒ほど間)

036 「だいぶ泡立ってきたね。

……あ、そうだ。気持ち良いとこ、変わってないかな」

(位置…以下、頭を洗ったり泡を流すシーンで、⑤を起点に、ときおりアドリブで後ろの方から耳の近くへの移動をお願いします)

(◇頭を洗う音 両耳のところで ループ)

037 「…憶えてる？ 耳の近く…好きだったよね。

「ー」

(数秒ほど間)

038「…ふふ、変わってないんだ」

039「…自分でする時も、

耳の近くばかり洗ってるんじゃない？」

(少し間)

040「…へえ、やっぱり…誰かにされる方が気持ち良いんだ」

041「…じゃあ、美容師さんに注文とかしてるの？」

042「耳の近くが痒いので、お願いしますって。…ふふ」

043「…そこまではしないかあ」

044「…でも、私になら、できるよね」

045「…良いんだよー？　お願いしても」

046「…耳のとこ気持ち良いから、もっとして、ってね」

047「…もうしてるけど。ふふ」

(◇頭を洗う音　耳の側を重点的に。ときおり中央に　ループ)

(一分ほど間)

048「…そろそろ、泡…流しちゃう？」

(少し間)

049「もっと、わしゃわしゃしてほしいんじゃないの？」

…あの頃みたいに」

050「……えー、絶対憶えてるでしょ」

051「洗ってもらうの気持ち良いから、
もっともっとって、ダダこねてたじゃん」

052「……ふふ。ずるくないって。
昔の話するのは、禁止カードってわけ？」

053「……あ、目開けてたら泡入っちゃうよ。
ちゃんと閉じてない」と

054「……ん、はあ……で、どうするっ。もう流しちゃうっ。」

(数秒ほど間)

055「……ふふ、良いよー。
わしゃわしゃ延長ねー。ふふ」

(◇頭を洗う音 中央から左右に振ったり、耳の両側で 耳に近づく際は音量を少し上げる
など ループ)

(一分ほど間)

056「あーあ、もう泡まみれたね」

(数秒ほど間)

057「こんなシャンプーしたの、初めてかも」

058「……ふふ。気持ち良さそうだね」

059「……や、顔……はっちり映ってるよ。
……ほら、前の鏡に……ふふふ」

060「……うちのチワワもさ、撫でまくると、
目細めて……こんな顔するんだよねー」

061「……いや、そっくり。ふふ」

062「……何？ ペット扱いされるの、やだった？」

（少し間）

063「ふっ、冗談っていうか、そんなふうに思っていないって」

064「……ただ、なんか可愛いなーって」

065「……分かんない？」

まあ、私って…なんでも可愛いって言うて」

066「…それだけ、世の中に可愛いものが多いんだよね」

（数秒ほど間）

067「よしよし、よしよし」

068「…ふふ。いつも、こうやって撫でてるんだよ」

069「……よしよし…良い子良い子お…」

（数秒ほど間）

070「今日も、いっぱい頑張ったね」。

偉い偉い」

071「……でも、頑張りすぎちゃうのは、ダメだよ。

ちゃんと、自分の身体にも優しくしてあげないとね…」

（数秒ほど間）

072「…んー？ 私だったら、疲れた日は、ゆっくりお風呂に浸かって…

ぼーっとしたり…するかな」

073「それが…気分転換に、友達に絡みに行ったり。ふふ」

074「…やっぱさ、

一人で抱え込んでたら…ダメになっちゃうよねえ」

075「…だからさ、君もそーゆー日は、誰かに頼って…

甘えちゃえば良いと思うなあ」

076「…いや、迷惑とか、そんなふうに思わないって」

077「…私なら、嬉しいけどな」

078「自分のこと、頼ってくれてるって…

必要なんだなーって、思えるから」

079「…だから、さ。

君も、何かあったら…私のこと、呼んでよ」

080「ていうか、君の方から来てよ。

…で、一緒に話したり、遊んだりしよ」

(少し間)

081「…うん、約束ね」

(二分ほど間)

(◇頭を洗う音 フェードアウト)

082「あ、さすがに泡流さないと。

…顔に垂れてきちゃいそ」

(◇シャワーの音 ループ)

083「…じゃ、流してくよー。目瞑っててねー」

084「……ふふ、いやー、子供扱いじゃないけどさ。一緒に入ってた時は、いつも言ってたから。なんか、癖になってるみたい」

(◇シャワーのお湯を髪に当てながら、手でわしゃわしゃする音 中央から左右に振ったり、
耳の両側で 耳に近づく際は音量を少し上げるなど ループ)

085「……ふんふんふーん」

086「あったかくて、気持ち良い？」

(少し間)

087「ふふ、そっか。」

流し終わったら、すっきりするよ

088「…ん、はあ……わしゃわしゃ、わしゃわしゃあ…」

089「……ん、ふう…」

090「耳の後ろ側も……洗い残しがないように…」

(数秒ほど間)

091「ん……だいぶ落ちてきたね。」

……あと、もう少し……ん、はあ…」

(三十秒ほど間)

(◇シャワーのお湯を髪に当てながら、手でわしゃわしゃする音 フェードアウト)

092「…ふう。さっぱりした？」

(少し間)

093「ふふ。じゃあ、次は身体だね」

(■トラック4 浴室でヌルヌル洗体手コキ)

(§)

(【主人公】立っている)

(【梨花】)

(マイクとの位置関係…⑤)

(体勢…立っている)

001「頭の次っていうと、身体しかないよね」

002「……何でダメなの？」

自分で洗うより楽じゃない？」

003「……あ、私が触ったら反応しちゃうからとか？」

004「誰も手で洗うなんて言っていないでしょ。

……これ、ちゃんとボディタオル使うから」

005「……ふふ。意識しすぎだって」

(◇ボディソープのプッシュ音)

006「……さ、洗ってくよー」

(◇身体をボディタオルで洗う音 ループ)

007「……ん、肩の方から背中に……」

(数秒ほど間)

008「しゝゝしゝゝ。背中広いから、洗い甲斐あるね」

009「……ふふ。後で私の背中もやってもらおうかなー」

010「……ん？ なーに。後ろじゃなくて、前の方が良かった？」

(少し間)

011 「冗談だって。

…もしかして、洗いたい？」

(少し間)

012 「ふーん。ほんとに触りたい癖に」

013 「……今も、鏡越しにこっそり見てるでしょ」

014 「……さっき、エッチしてる時なんか、

触りたそうな目してたと思うけどなー？」

(少し間)

(◇身体をボディタオルで洗う音 ニニニまで)

(位置…次の台詞を言いながら、⑤↓④に移動)

015 「あ、前の方も洗ってあげよっか」

(少し間)

016 「良いの？ 洗ってほしそうだけど」

017 「……いや、隠しても意味ないって」

018 「…それ、そのままだと…気にならない？」

019 「…私は気になるなー。そんな大きくしちゃって」

020 「…で、どうするの？ 小さくなるまで待つ？」

(少し間)

021「そう？　小さくなりそうな気しないけど」

(少し間)

(位置…次の台詞を言いながら、④↓③に移動)

022「…ね。してほしいなら、良いよ」

023「……だから、それ…おちんちん、抜いてあげよっか」

(少し間)

024「や、からかってないって。

…さつき、エッチまでしたのに」

025「今までのが、全部冗談だって思うの？」

026「一緒にお風呂入ったも、初めてのことも…

全部、君だからしたんだよ」

027「…いくら興味があるからって、

そんなの…誰にでもするわけないじゃん」

(ここからオンマイク、小声で)

028「……ほんととは気づいてる癖に。…意地悪」

029「……いつまでもそんな態度なら、私もしちゃうよ。

君が…困っちゃうようなこと」

030「……ん、ちゅっ。ふふ」

031「耳…弱いもんね」

032「…もっと弄ったら、どうなるかな…」

033 「ん……ちゅっ、ちゅう……はあ。
おちんちんも…」

（◇ヌルヌルの手コキの音 ループ）

034 「…ん、はあ……シロシロ、シロシロ……ぷぷ」

035 「エッチした後のおちんちんだから、
よく洗っておかないとねえ…」

036 「ん……ちゅっ、はあ……んれろお、れるれろお、れるるう……ああ…」

037 「身体…びくってしてる」

038 「耳って…そんなに良いんだ………」

039 「れろお、んれろお、れるう…」

おちんちん、小さくなるところか、どんどん膨らんでるよ…」

040 「れろお、ぴちや、れるるう…」

お腹にぴったりくっついて…れろお」

041 「おへそにも届いちやいそうだね…」

れろお、んれるう、れるるう…はあ」

042 「おちんちん…あつつい…れろお、れるれろお、れるるう…」

ああ…んれろお、ぴちやあ…はあ、そうだ…」

043 「おちんちんだけじゃなくて、身体も洗ってあげないと…」

（◇ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 ループ）

044 「…んっ、んう…ああ…」

045 「おっぱい…気持ち良い？」

んれろお、れるれろお、れるるう…はあ…」

046 「私の胸、気にしてたよね？」

んれろお、れるるう、れろれるう…ああ…」

047 「視線…感じてたし。」

エッチの時も、ずっと見てたから…れろお、れるう…」

048 「触りたいんじゃないかなあって…」

れろお、れるれるう、んれろお…れるろお…」

049 「男の子は、皆おっぱい、大好きだもんね…」

050 「れろお、んれるう、れろれるう…はあ」

051 「私だって…おっぱい、成長したんだよ…んっ、はあ…」

052 「裸見るより、こうしてくつつけた方が、良く分かるでしょ？」

053 「ん…っ、ああ…んれろお、れるれろお、れるるう、はあ…」

054 「んう…はあ、んっああ…腕も、ゴツゴツしてるね…」

055 「んあ、ああ…感じ易いと…擦れるから…んっ」

056 「声…漏れちゃう…んっ、はあ…ああ…恥ずかし…」

057 「んっん…はあ、聞こえないように、耳の穴…舌で塞いじゃわないと…

んれろお、れるれるう…んれろお…れるう」

058 「ああ…ん、はあ…れろお、んれるう、

れるぴちゃ…れるれるう…んれろお…れるちゅう…っ」

(◇手コキの音 ニニニまで)

(◇洗体の音 ニニニまで)

059 「ちゅばあ…はあ…はあ…」

060 「反対の耳にも、同じ」としてあげよっか

(少し間)

(位置…次の台詞を言いながら、③↓⑤↓⑦に移動)

061 「じゃあ、するね。こっちの方も…」

062 「ん…ちゅっ。ちゅう…はあ」

(◇ヌルヌルの手コキの音 ループ)

(◇ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 ループ)

063 「れろお、れるれろお、れるう……

あ、こっちも感じ易いんだ」

064 「れるう、んれろお、れるれろお…はあ、

可愛い声、出てるよ」

065 「女の子みたいな、ん…はあ、高い声…ふふ」

066 「んれろお、ぴちや、れるれろお…もつと聴かせてよ…」

067 「私が知らない…れろお、れるう、

エッチな声え…んれろお、れるれろお、れるるう…」

068 「はあ…れろお、んっ…んう、れるう、んれるう、れるるう…はあ」

069 「ふふ、耳とおちんちんの同時責め…」

070 「君って…そんな反応するんだ。

…可愛い…ちゅっ」

071 「ちゅう…ちゅぱっ、んれるう、れろお…れるれるう…はあ」

072 「このままおちんちん扱いてたら…出ちゃっ？」

073 「んれろお、れるれろお…れるう、ああ…良いよ」

074 「射精…して。んれろお、れるろお…はあ、さっきは…ゴムで…良く分かんなかったから」

075 「おちんちん、射精してると…んっ、指に感じさせて…っ」

(◇ヌルヌルの手コキの音 だんだん激しく ループ)

076 「れろお、んれるう…れるれるう、はあ…っ」

077 「手のひらヌルヌルだから…んっ、エッチな音…すこいね」

078 「勃起したおちんちん、手コキしてるって感じ…んう、意識しちゃう」

079 「ああ…んっ、れろお、れるれるう、んれろお…ぴちゃ、れるるう…ああ…」

080 「おちんちん、辛いんですよ？いつでも良いんだよ…んれろお、れるるう…」

081 「先っぽから、びゅううって…れろお、んれるう、れるれるう、はあ…ん、ああ…」

082 「精液…出るんだ。
…ん、はあ…私の、手で…んっ、ああ…」

083 「んっんう…はあ、ねえ…射精って、どんな感じなのかな」

084 「精液が、おしっこ出ると…、びゅううって通るのが…気持ち良いの？」

085 「…んう、れろお、れるれるお、んれるう…
ああ…へえ…すっきりするんだ…」

086 「…ん、ああ…そしたら、セックスも、しなくなっちゃう…？」

087 「…れるお、れるう、んれろお…れるう、
だって…この後、エッチ…したいから」

088 「…私も、んう…はあ、気持ち良くなって…んっ」

089 「このおちんちんで、イキ…たい…っ、
んう…れるお、んれるう、れろれるう…ああ…」

090 「…大丈夫、なの？ ん…はあ、
じゃあ…シャワー浴びたら、私のことも、気持ち良く…してね」

091 「気づいてないと思うけど…んう、はあ…
今、すっこい濡れてるから」

092 「…んう、当たり前…じゃん」

093 「乳首…擦れっぱなしだし…んっ、あ…
身体も、こんな…くっ付けながら…」

094 「君の勃起おちんちん、弄りまくってんだよ…？
そんなの、興奮…しちゃうよ」

095 「ん…はあ、あっああ…どう？
おちんちん、射精しそう…？」

096 「はあ…んれろお、良いよ…出してえ…
れろお、んれるう、れろれるう、れろお…」

097 「ああ…イきそうな時、こんな顔するんだ…」

098 「んれろお、んちゅっ、ちゅっちゅう…っ、
れるう、れろれるう、れろれるう…ああ…」

099「我慢しちゃダメだからね。全部、搾り出すから…
んれろお、れるれろお、ほら、イってえ」

100「…最近、忙しくて…んれろお、れるう…溜まってたんでしょ？」

101「出し切っていない精液、たくさん…んう、
私の手コキでえ…れるれろお、んれるう、れろれるう…」

102「んっ、んあっんっ、んんうう…っ、
れるれろれるう、んちゅっ、ぢゅるるるううう…っ」

（◇ヌルヌルの手コキの音 ニニまで）

（◇ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 ニニまで）

（射精）

103「精液、びゅっ、びゅうううう…っ。
びゅーびゅー、びゅびゅううう…っ」

104「ん…あああ…すい…」

105「射精する時って、おちんちん…こんなふうに、なるんだ…」

106「…ん、はあ…。
びっくりして、手…放しそうになっちゃった…ん、はあ…」

107「…んう、ちゅっ。れる…れる、れる…ぴちゃ、れるう…はあ」

108「おちんちん、柔らかくなっちゃったけど…」

109「エッチの時は、またガチガチにしといてね」

110「ん…ちゅっ。ふふ」

（オンマイク、小声はニニまで）

(■トラック5 両想い好き好きエッチ)

(s)

(【主人公】座っている)

(【梨花】)

(マイクとの位置関係…①と⑨の間)

(体勢…座っている)

(◇シーツの擦れる音)

001「あれ、コムって…もうないの？」

(少し間)

002「そっか。じゃあ…付けなくても、良いよ」

003「今から服着て買いに行くってのも…なんか違うと思うし」

004「それより、早く…しょ？」

今日…大丈夫な日だから」

005「……もお。そっちからしないなら……」

(◇ベッドに押し倒す音)

(位置…①と⑨の間→①と⑨の間の少し下に移動)

006「勝手に入れちゃうね」

(◇愛液の音)

007「んう…はあ。さっきは君が頑張ってくれたから、
今度は私が上ってことで……んんっ」

(◇愛液の音)

008 「あ…初めての時より、んう…入れ易いかも」

009 「ん…はあ。君の形…憶えちゃったのかな…んっ」

(◇挿入音)

010 「んんう、ああ……はあ、入った……ん、ああ……
…じゃあ、動くね」

(◇抽送音 ループ)

(◇ベッドの軋む音 抽送の速度に合わせる感じで ループ)

011 「んっ…はあ、んっ、んんっ、ああ…」

012 「んんう、あっああ……気持ち良い…」

013 「おちんちんの形…はつきり、分かっちゃう…んう、はあ…」

014 「出っ張ったところも、んう…先っぽまで…全部…んんっ、ああ…」

015 「これが、生のセックス…んっんう、あああ…」

016 「こんな、気持ち良いんだ……
ゴム、してないだけで…んんっ、はあ…」

017 「んっ、んっんう、はあ……君も、感じてるんでしょう？」

018 「…なのに、何で…辛気臭そうな顔、してんの？」

019 「んう、ああ……ほら、生のおまんこ、気持ち良い癖に…」

020 「中のおちんちん、悦んじやつてるよ?」

021 「隠そうとしたってえ…ん…んあっ、
「うやって…奥でぐりぐりするとお…んんっ」

022 「おちんちん…反応するよね。
んう…はあ、んっんう、ああ…」

023 「こんなの、オナニーだけじゃ、味わえないんじゃない？」

024 「…んう、はあ……私も、すっ」く…
んんっ、感じちゃってるし…」

025 「セックスって、ストレス発散にもなって…
んあっ、ああ…ちょうど良いのかも…」

026 「…んっんっ、はあ……ああ……
今まで、ただの幼馴染だったけど…」

027 「こういう関係も、んう、良いと思わない？」

028 「…ほら、私が相手なら、色々気遣う必要ないし……
んう、はあ……んっんう、ああ…」

029 「そんなこと、ないよ。

だって……もう、処女じゃ……ないんだよ？」

030 「生でも、んんっ、エッチして……
ああ、どっちも気持ち良くなれるなら、別に……」

031 「んっんう、んあっ、あっああっ、
んん……はあ、ああ……んっ」

032 「何が、違うのさ。
散々やった後で、今更……じゃん」

033 「おちんちん、入れる前に……言つてよ。
んう、ばかあ……んっんう、ああ……はあ……」

034 「身体…受け入れて、ゴムなしのセックスした後で……
「こういう関係ダメって……んう、ああ……」

(位置…次の台詞を言いながら、①と⑨の中間の少し下→③に移動)

035 「はあ……じゃあ、さ……」

どういふ関係なら、君とエッチ……して良いの？」

036 「はつきり、してよ……」

ん……はあ……んう、ああ……あっ……もお……」

037 「ほんと、言うの遅い……」

んっ、はあ……んっ……そんなの……」

(「ここからオンマイク、小声で」)

038 「私も……好きに……決まってるよ」

039 「んっ、んんうっ、うっああ、何……これ」

040 「んんう、ふあっああ……さっきと、全然……違う……」

041 「んあっ……ああ……んっんう、

はあ……奥当たったら、あんっ、ぞわぞわって……」

042 「……んっあっあっ、ああ……はあ……んあっ、

ああ……ねえ、これって……」

043 「もう、両想いって……とだから……その……んっ」

044 「私たち、恋人ってことで、良いの……？」

んっ、はあ……ああ……そっかあ……ふふ」

045 「私、君の彼女になったんだ……んんっ、はあ……

ずっと、幼馴染のままでって、思ってたのに……」

046 「んう……はあ、嬉しい……ちゅっ、んれるう、れるれるお、

んれるう、れるれるお、れるちゅう……んっ」

047 「ああ…んれろお、れるれるう、ぴちゃあ…はあ…んんっ、ああ…」

048 「ずっと、待ってたんだよ。」

今日「そはって悪いながら、君のこと、んん…ずっとお」

049 「れるう、んれろ…れるう、れるれるう、

ああ…やっと、言えたのに…んう」

050 「はあ…足りない、よ……

一回だけじゃ、んう…ああ…」

051 「私も…好き…大好きい…

れるう、れるるう、んれるう、れろれろお、れるちゆう…っ、はあ…」

052 「んっんう…ああ、んれるう、れろお…んう…すい…はあ…」

053 「こんなに…違うんだ…れるう、れるるう…

恋人同士のエッチって…あああ…」

054 「気持ち良すぎて…あつたかくてえ…ん、ちゅっ」

055 「幸せ…だねえ…んう、んあ…ああ…

れるちゆう、んれるう、れろれるう、ちゆう…ちゅぢゆう…っ」

056 「はあ…ああ…れるう、れろれるう、れるるう、ぴちゃあ…

んれろお、れるれるう、んちゆう…っ、はあ…」

(位置…次の台詞を言いながら、③↓⑦に移動)

057 「ああ…んっんう、ふあっあっああ……

こっちの耳にもお…ん、ちゅっ…好き…大好きい」

058 「んれるう、れろれろお、れるう…んんっ、

ああ…れろお、れるるう…れろお…」

059「ああ…んんっ、はあ…なんか、まだ…大きくなってない？
れるお、れるるう…ああ…」

060「や、絶対…んう、なってるってえ…
んっはあ…れるるう、れるれろお…んんう、はあ…」

061「さっきよりも、中に、入ってるって感じ、するよ…？」

062「んう…はあ、んんっ、んあっああ…ん、ほらあ…んんっ」

063「お、大きいってえ…んっ、ああ…
れるう、れるれるう、んれろお、れるう、はあ…」

064「それに…びくびくって…んんっ、れるう、
れるれるう、れるろお、んれるう、れろお…」

065「これって、そろそろ…イきそうなの？」

066「んう、はあ…良いよ、んう、
繋がったまま…奥に、精液ちようだい？」

067「大好きな人の…恋人の精液…ほしいからあ…
んれろお、れるれろお、れるう…んんう」

(◇抽送音 だんだん激しく ループ)

068「ああ…出してえ…んう、中に…濃いのびゅうううって…
んんう、はあ…」

069「恋人なんだから、もう…我慢しなくて、良いんだよ」

070「んう…ああ…んれろお、れるれるう、
れるるう、はあ…私もお…んんっ」

071「イきそう…だからあ…
れるう、れるれるう、熱いの…出してっ」

072 「おまんこの中に、直接…んんう、
大好きだってこと…感じさせてえ…」

073 「れるう、れろれるう、んれろお、ぴちや…れるるう、はあ…」

074 「好き…好きい…んんっ、あんっ、あっあっあ、
んん…っ、ふあっああ…」

075 「精液、中出し…してえ…んっんう、ああ…
私の、一番奥う…んんう、ちゅうう、ちゅぱあ…」

076 「先っぽに…子宮、れるうれろお、んう、
くっ付けながらあ…んっんう、ああ…」

077 「分かる…？
そこ、そこが…んう、子宮う…んんっ、ああ…」

078 「先っぽで…感じてる？ れるう、れろお、ああ…っ」

079 「そこお…精液で、んんう、いっばいにしてえ…
れるう、れろれるお、れるろお、れるちゅうう…っ」

080 「ふあっああ…もう、ほんと、にい…んっ…おっ
んっんっんう、あああ…イクう、イクっ、イいい…っ」

(◇ヘッドの軋む音 「」まで)

(◇抽送音 「」まで)

(射精)

(声を抑える感じで絶頂)

081 「んんううっ、んん…っ、ひあっ……んんんう…っ」

082 「あっ…あああ…」

あっついのにっばい…はあ…中、「」

083 「ああ……おへその下、あったかい……んう、はあ…」

084 「これ…全部…君の……んう、はあ…」

085 「好きい……ん、ちゅう……

れるう、れるう……れるう……ぴちゃ、んう……れるう、れるう……はあ」

086 「ああ……はあ……ふふ」

087 「おちんちん、まだ硬いけど……どうする？」

088 「……ん、はあ……ふふ。

うん、私も、いったばかりだけど……」

089 「まだ……したいな。

……ん、ちゅっ……ああ……」

090 「じゃあ、このまま……する？」

(オンマイク、小声はここまで)

091 「え？ その体勢だと恋人ぽいっていうか……

あー、恋人なんだよね」

092 「えっと……君が起き上がれば、良いの？」

(少し間)

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→①と①と⑨の間に移動)

093 「……うん。ちゃんと、支えてね。……んっ」

(◇シーツの擦れる音)

(位置：①と⑨の間→①に移動)

094「…あ。なんか…思ってたより、顔…近いね」

095「…これ、対面座位って…言うんだっけ」

096「…そか、見つめ合いながら…しちゃうんだ」

097「あー…ちゃんと、できるかな」

098「…や、だって…照れくさいっていうか」

099「幼馴染でいるの、長すぎたから。

付き合ってる実感とか、まだ…」

(◇抽送音 ループ)

(◇ベッドの軋む音 抽送の速度に合わせる感じで ループ)

100「んんう、あ…ちよつと、ん…もお…」

101「んっんう、ふあっああ…んっ、あっああ…」

102「はあ…んっ、ほんと…恥ずかしいって…んんう」

103「急に、そんな…んう、んあっ、あんっ、あっはあ…」

104「んう、その…嫌じゃ、なくて…んんう、

色んな気持ち、ぐちゃぐちゃで…んんっ、はあ…」

105「あっああ…でも、慣れてかなくちゃ、いけないんだね…」

106「んう、ああ…はあ、んっんう…

ああ…私、ヘンじゃ…ない？」

107「んっんあっ、ああ……

そう？ 可愛いって…本気で、言ってる？」

108「んう、んああ…嬉しい…んっふあっ、あっあああ…」

109 「ね、キス…しょ？

んっ、はぁ……こんな、顔…近いんだから…
これって…そういうこと、でしょ……」

(ここからオンマイク、小声で)

110 「んむ…ちゅう……っ」

111 「ぶはぁ…あぁ……

そっか…キス、初めて…んう、はぁ…」

112 「なんか…逆に、なっちゃったね。

告白も、キスも…んう、はぁ…ちゅう…」

113 「あぁ、けど、これからでも、良いよね」

114 「デートして、手繋いで…んっ、

いっぱい…恋人らしいこと…」

115 「ん…あぁ、恋人にしかできないこと、君と…」

116 「んう…ちゅっ、はぁ……んぁ、あぁ…」

117 「キス、たくさん…ちゅう、ちようだい…っ」

118 「んむう、んちゅっ、ちゅっ、

んん…んむ、ちゅっ、ちゅう……あぁ」

119 「柔らかい…ちゅう、ちゅっちゅう…

んむう、ふぁっあむう…れるう…」

120 「舌、もっとお…れるれろお、ちようだい…れるう…んう、ちゅっ、

ちゅう…れるれろ、れるちゅう…っ、ぶはぁ…」

121 「あぁ…んっ、はぁ…あっあっ、あぁ……ん、

ちゅう…れるれろ、れるちゅう…っ」

(「ここからキスしながら話すように」)

1 2 2 「はあ…っ、キスしながらの、セックスう…
んんう、んちゅっ、ちゅっちゅう…」

1 2 3 「こんなふうに、なるんだ…
んちゅっ、ちゅっちゅう…れるう、れろお…んっんう…」

1 2 4 「ああ…全部、溶け合ってるみたいで…んう、
ふあっああ…れるちゅう…」

1 2 5 「身体、ふわってえ…んっんう、ああ…ちゅう、
ちゅばあ…れるれろお…はあ…」

1 2 6 「正直、カップルとか、んう…いちやついてて、
ああ…むかつくうって思ってたけど…んあっ」

1 2 7 「いちやいちやるセックス…んむう、
気持ち良すぎて…ちゆる、頭…ばかになりそ…」

1 2 8 「んっあっああ…幸せえ…んちゅっ、ちゅう…あああ…
んちゅっ、ちゅっちゅう…」

1 2 9 「ああ…ずっと、こうしてたいい…んっ、んっんう、
あああ…んれろお、れるれるう…れちゅう…っ」

(キスしながら話すのは「ここまで」)

(オンマイク、小声は「ここまで」)

1 3 0 「ぶはあ…んう、あっああ…
え、顔…エッチに…なってるっ」

1 3 1 「んう、はあ…もう、どうでもいいや…んう、ああ…」

1 3 2 「両想いだからあ、んう、だらしな顔でも、
彼氏にだけ…だったらあ…んんっ、ああ…」

1 3 3 「んっ、はあ…あっあっ、ああ……」

君も、いちゃラブセックスして、んう、顔…にやけてるよ？」

1 3 4 「…ふふ、恥ずかしい声も…あんっ、

いっぱい漏れて…んう、んあっあっあっああ…」

1 3 5 「あああ…この感じ…んう、はあ……

もう、イきそ…んんっ、ひあっああ…」

1 3 6 「んう……うんっ、イク時は…一緒だよ……。

二人で、動きながらあ…んう、ああ…」

1 3 7 「んっんっんう、ああ…好き、大好き……んんっ、はあ…」

1 3 8 「何回言っても、足りない…っ。

今まで、言ってこれなかった分、もっとお…」

(ここからオンマイク、小声で)

(「ここからキスしながら話すように」)

(◇抽送音 だんだん激しく ループ)

1 3 9 「んむう…ちゅう…好き…れるちゅう…好き、好き好き」

1 4 0 「大好き…んちゅっ、ちゅぱっ…ちゅうう…

れるれるお、んんう…っ、ふあっああ…んんうっ」

1 4 1 「あああ…れるう、れるれるう、

キスも…ちゅう、エッチもお…ちゅう…」

1 4 2 「君とすることなら、んう、全部う…

ちゅう、しゅき…ちゅっちゅう…」

1 4 3 「あああ…ちゅっ、ちゅるう…れるちゅう…んんう、

んむ…んっんっんう…あああんっ、イクう…」

1 4 4 「んっ、あっあっああ…深いと」でえ、
んんう…繋がりがらあ…んちゅっ、ちゅう…」

1 4 5 「んんう、ふあああ…そんな、んちゅ…
ぎゅうってされたらあ…んっんんうっ」

1 4 6 「ああ…溶けるう…んっんんう、ああ…溶けちゃうっう…」

1 4 7 「んう、あっああ…もっと、もっとぎゅううってえ…」

1 4 8 「んむ…ちゅっちゅう…んんう、ふあっちゅっ、ちゅるう…んんっ、
んあっ、好きっ、好きっ好きい…んっんっんんう…」ッ

(◇ベッドの軋む音 ニニニまで)

(◇抽送音 ニニニまで)

(射精)

(キスしながら絶頂。キスしながら話すのはニニニまで)

1 4 9 「んんんうううっ、ん…ッ、んむ…んんう、ふはあ」

1 5 0 「ああ…すい…」…「んな、いっばい…
んんう…ちゅっ、ちゅ…はあ…ああ…」

(◇ゆっくりな抽送音 ループ)

1 5 1 「んう…ちゅっ、ちゅう…あ…んっ、れる、れる…
んちゅう…はあ、れる…ぴちゃ…ちゅう…」っ

(◇ゆっくりな抽送音 フェードアウト)

1 5 2 「ちゅぱあ…はあ…はあ…ああ…」

1 5 3 「…精液、また、ぴゅうって出てたね」

1 5 4 「…ふふ。ばれてないって、思った？」

155 「それくらい、分かるよ。

……「つに、なってるから」

156 「…ん、ちゅっ。

大好き……ふふ」

(オンマイク、小声は「こまで」)

(■トラック6 いちやつき添い寝)

(§)

【主人公】寝ている

【梨花】

(マイクとの位置関係…⑦)

(体勢…寝ている)

(◇シーツの擦れる音 右)

(ここからオンマイク、小声で)

001「…ん。はぁ……ふふ」

002「ねーえ。こっち…見てよ」

003「ちょっと…聞「えてる？ つんつん」 ふふ」

004「今更…恥ずかしくなっちゃった？

…さっきの「と」

(少し間)

005「ふふ。実は…私も」

006「実感ないとか言ったのに、あんな求めちゃったし…」

007「何回も、好き好きって…」

言えなかった分、なんか…溢れてきちゃって…」

008「全然、止まなくて…」

思い返すと、やっぱ…恥ずかしいね」

009「……でも、言えて良かった」

010「きつと……これから、いっぱい恥ずかしい」と言ったり……
しちやったり……するのかな。…君と」

(少し間)

012「じゃあさ。恥ずかしいことに、慣れておいた方がよいね」

013「ん、ちゅっ」

(◇シーツの擦れる音)

(位置：⑦→①に移動)

014「あ、やっと見てくれた。ふふ」

015「ほっぺより…唇の方が、良い？
……な」

016「ん……ちゅっ。んう……ちゅっ……ちゅう……はあ」

017「しちやった後だと…余計に、恥ずいね」

018「ああ……ちゅっ……顔、あつつい……
んう、ちゅっ、ちゅう……ちゅば……ふふ」

019「やっぱさ……慣れる気、しないなあ」

020「……でも、そっちの方が良いのかも」

021「……だって……ちゅっ」

022「キスの時は、ドキドキしてた方が、良いかなって……
ん、ちゅっ……ちゅう……はあ」

023「……大好き」

024「……「れからも、ずっと側にいてね」

026「……ちゅっ」

027「……幼馴染よりも、近いと……ね。ふふ」

(オンマイク、小声は「ここまで」)

(END)

(計約17330文字)